生産と流通双方向の デジタルデータ基盤の構築-B

刀禰　一幸[1]（研究分担者：写真）

1 水産研究・教育機構　水産大学校　水産流通経営学科

研究の目的

山口県の沖合底びき網漁業（以下、沖底）で漁獲される水産物の価値向上を目的として、沖底の主要漁獲魚であるアンコウ、アカムツ、マダイの消費地における流通実態について調査を行います。解析した情報は、流通業者へ提供します。本稿ではアカムツについての研究成果を報告します（図1）。

図1　沖合底びき網漁業によって漁獲された山口県下関産アカムツ

研究の成果

消費・流通に関する統計データの解析や流通実態の調査から、石川県金沢市は日本最大級のアカムツ消費地であることがわかりました。山口県産アカムツは金沢市にも出荷され、脂ののりが良い（脂肪の含量が高い）などの高い評価を得ていました。金沢市において、アカムツは多様な用途に仕向けられ、全てのサイズに需要があることがわかりました（図2、3）。

図2　アカムツの消費用途（石川県金沢市）

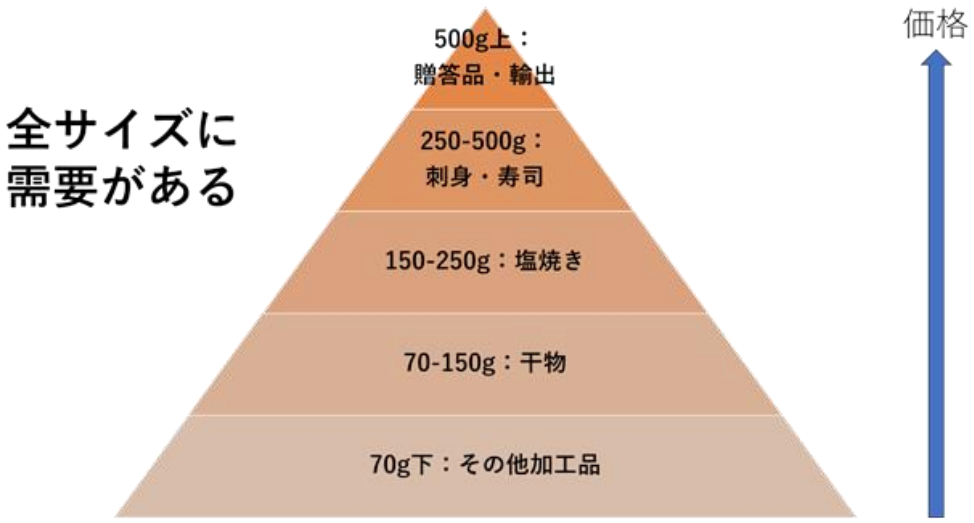

図3　アカムツのサイズ別の消費用途別配分

波及効果・政策提言

● 消費･流通に関する統計データや流通実態の情報は、流通業者の市況予測情報に活用でき、既存の漁業支援アプリ等を利用して、デジタルデータ基盤の構築に貢献します。

● 生産と流通双方向のデジタルデータ基盤の構築は、マーケットインの取組みとして生産ニーズと消費ニーズのミスマッチの解消に貢献し、水産物の価値向上に繋がります。（図4）。

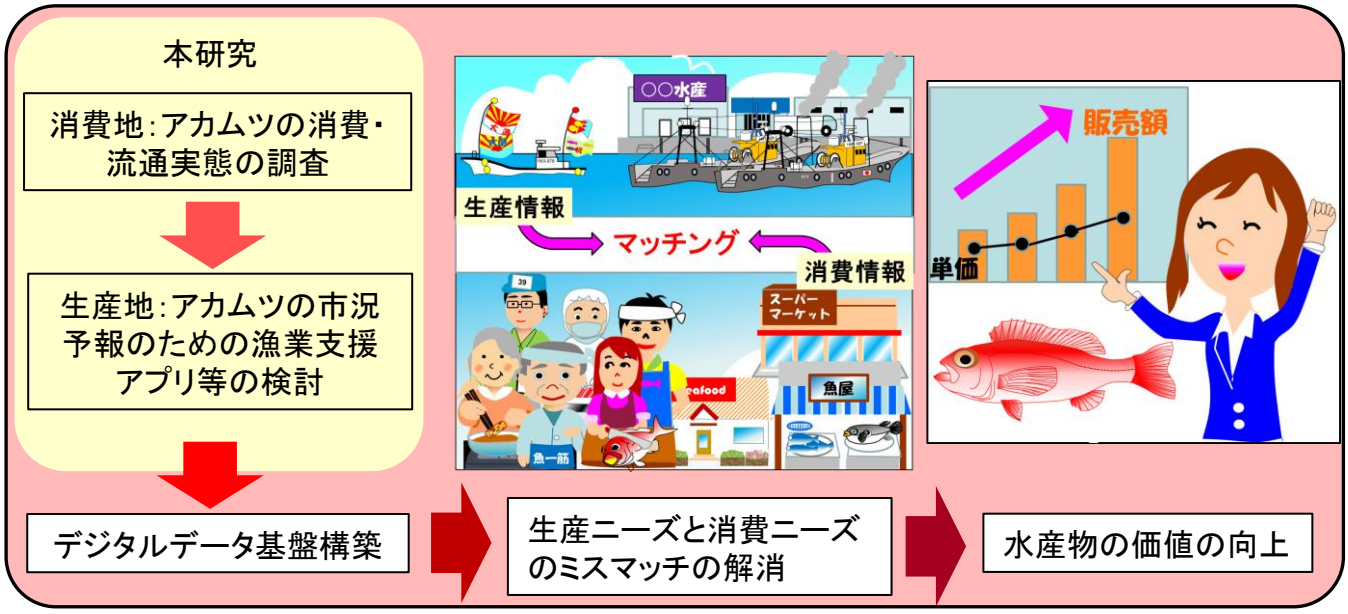

図4　研究成果の波及効果